

藤島のゼロ歳児31人 過去最少

ゼロ歳児の減少が止まっています。まっています。

地域存続の危機が深

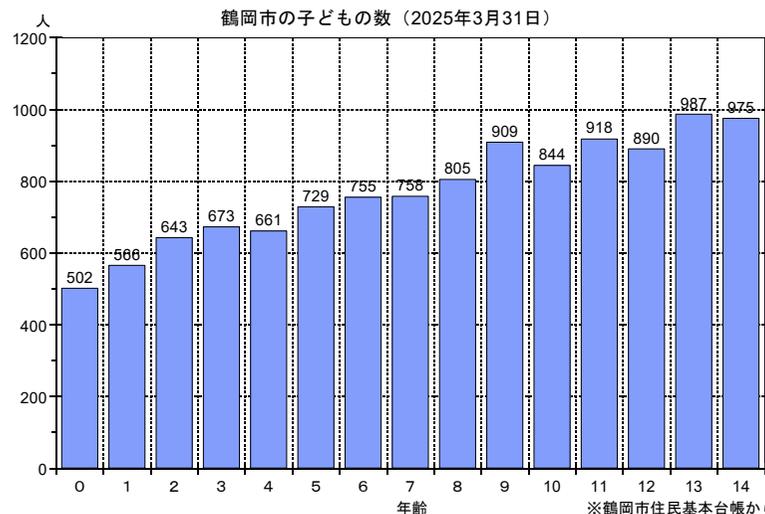
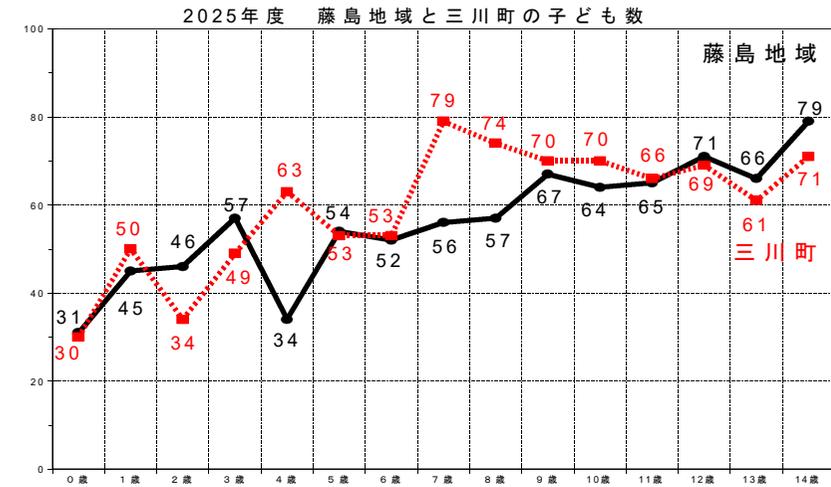
合で、地域が不便にな

れば、ます

ければなりません。

ます少子化が加速し、

その道は、絶対避けな



藤島地域の地区別子どもの数（2025年3月31日）

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
		藤島	男	10	21	16	22	8	12	12	14	17	15	14	21	16
	女	8	12	8	14	7	17	13	10	16	15	20	16	15	17	14
	計	18	33	24	36	15	29	25	24	33	30	34	37	31	30	43
八栄島	男	2	0	2	2	2	1	1	4	3	1	1	2	5	2	4
	女	2	0	0	2	4	2	3	5	3	5	4	3	4	4	6
	計	4	0	2	4	6	3	4	9	6	6	5	5	9	6	10
長沼	男	1	1	4	2	1	1	2	4	3	6	2	2	4	4	2
	女	1	2	2	4	3	3	2	2	3	4	3	3	4	1	6
	計	2	3	6	6	4	4	4	6	6	10	5	5	8	5	8
渡前	男	2	3	4	2	4	5	3	4	1	2	3	5	5	9	5
	女	2	3	5	3	3	6	5	7	1	8	3	3	6	8	5
	計	4	6	9	5	7	11	8	11	2	10	6	8	11	17	10
東栄	男	0	1	2	4	2	4	8	1	8	4	8	5	4	2	4
	女	3	2	3	2	0	3	3	5	2	7	6	5	8	6	4
	計	3	3	5	6	2	7	11	6	10	11	14	10	12	8	8
合計	男	15	26	28	32	17	23	26	27	32	28	28	35	34	30	44
	女	16	19	18	25	17	31	26	29	25	39	36	30	37	36	35
	計	31	45	46	57	34	54	52	56	57	67	64	65	71	66	79

三川町の子どもの数（2025年3月31日）

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
		三川町	男	13	25	19	30	34	35	26	42	37	40	37	33	39
	女	17	25	15	19	29	18	27	37	37	30	33	33	30	32	30
	計	30	50	34	49	63	53	53	79	74	70	70	66	69	61	71

ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

語り継ぐ「私の戦争体験」鈴木雪子①
今年には戦後80年です。もはや戦争を知らない世代がほとんどとなりました。今から20年前、山形県老人クラブ連合会の『語り継ぐ戦時体験』の募集があり、私が鈴木雪子さん（八色木）から聞き書きし、10数ページの冊子にまとめました。雪子さんは昭和13年（1938）、開拓団として入植。昭和14年に一時帰国し、結婚して再び満州に渡りました。主人（重吉さん）が現地に召集されている中で終戦を迎え、3歳半の次男と妊娠7カ月の身重の逃避行となりました。鈴木雪子さんのお宅は、私の隣組です。後世に残る体験であり、ご家族の許しを得て連載いたします。

☆ ☆ ☆
終戦 私たち開拓団員が終戦を知ったのは、昭和20年8月17日の明け方、ウチミの駅に着いた時でした。

駅に着いたのが、夜通し歩いてやっと夜も明けた頃。皆疲れ切ったどおり着いた時は、現地の満州人たちが大勢集まり、「日本負けだよ」と叫んでいました。でも私たちには何の悪さもせず、ただ眺めているだけでした。本部から通達があったのは、16日夕方近くだったと思います。各部落から一人至急集まるように、という連絡だったそうです。帰ってきたのが夜の8時頃でした。

「今夜中にウチミ駅に向かって避難するように」とのことでした。それはまさに青天の霹靂とでもいいでしょう。うか、驚天動地の騒ぎです。

私たちの部落では、8月17日のお祭りの準備で、前日の午後から主人の弟の嫁さん、嫁さんの妹の岡部さんと、親戚どうし3人で、岡部さんの家に集まり、持ち寄った煎餅や小豆蜂蜜などを揃え、明日のお祭り気分喜んでいたのが、一変して奈落の底に落ちたのです。（つづく）



20年前の鈴木雪子さん

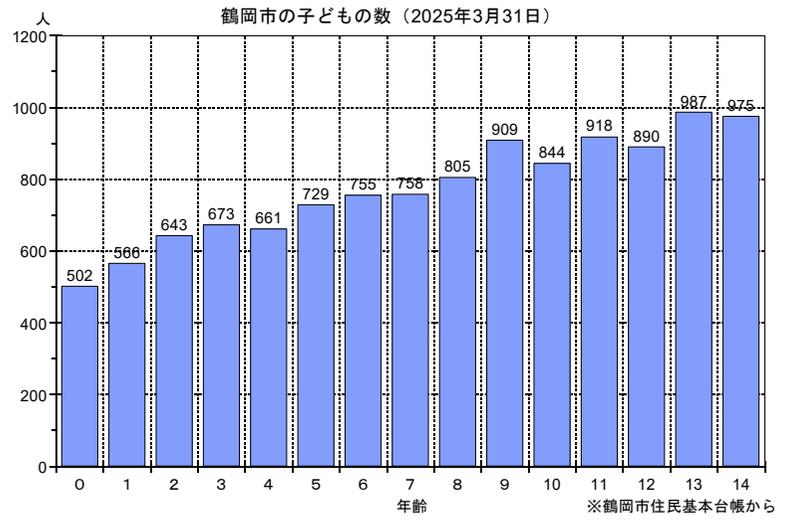
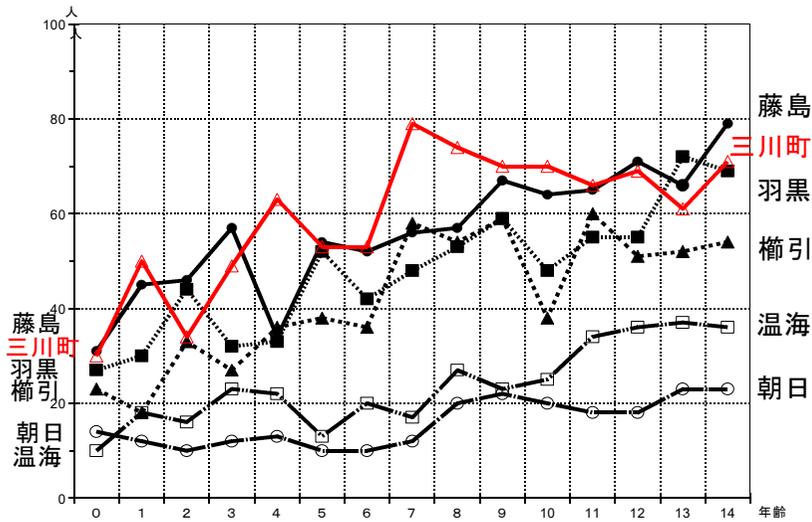
ゼロ歳児502人 過去最少

ゼロ歳児の減少が止まっています。地域存続の危機が深まっています。

公共インフラの統廃合で、地域が不便になれば、ますます

ます少子化が加速し、その道は、絶対避けなければなりません。

合で、地域が不便になれば、ますます



鶴岡市の地域別子どもの数 (2025年3月31日)

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
		鶴岡	男	195	219	247	266	256	289	301	278	285	345	305	339	327
	女	202	224	247	256	267	273	294	289	309	334	344	347	332	365	362
	計	397	443	494	522	523	562	595	567	594	679	649	686	659	737	714
藤島	男	15	26	28	32	17	23	26	27	32	28	28	35	34	30	44
	女	16	19	18	25	17	31	26	29	25	39	36	30	37	36	35
	計	31	45	46	57	34	54	52	56	57	67	64	65	71	66	79
羽黒	男	18	19	17	20	15	32	24	24	26	33	29	31	26	36	34
	女	9	11	27	12	18	20	18	24	27	26	19	24	29	36	35
	計	27	30	44	32	33	52	42	48	53	59	48	55	55	72	69
檜引	男	10	8	9	12	24	19	22	37	30	26	17	28	26	33	20
	女	13	10	24	15	12	19	14	21	24	33	21	32	25	19	34
	計	23	18	33	27	36	38	36	58	54	59	38	60	51	52	54
朝日	男	8	5	6	6	10	6	4	5	11	11	10	12	13	11	9
	女	6	7	4	6	3	4	6	7	9	11	10	6	5	12	14
	計	14	12	10	12	13	10	10	12	20	22	20	18	18	23	23
温海	男	3	10	9	13	10	10	9	6	14	14	13	19	16	15	19
	女	7	8	7	10	12	3	11	11	13	9	12	15	20	22	17
	計	10	18	16	23	22	13	20	17	27	23	25	34	36	37	36
合計	男	249	287	316	349	332	379	386	377	398	457	402	464	442	497	478
	女	253	279	327	324	329	350	369	381	407	452	442	454	448	490	497
	計	502	566	643	673	661	729	755	758	805	909	844	918	890	987	975

ふるさと賛歌

鈴木重雄(八色木)

語り継ぐ「私の戦争体験」鈴木雪子①
今年には戦後80年です。もはや戦争を知らない世代がほとんどとなりました。今から20年前、山形県老人クラブ連合会の『語り継ぐ戦時体験』の募集があり、私が鈴木雪子さん(八色木)から聞き書きし、10数ページの冊子にまとめました。雪子さんは昭和13年(1938)、開拓団として入植。昭和14年に一時帰国し、結婚して再び満州に渡りました。主人(重吉さん)が現地に召集されている中で終戦を迎え、3歳半の次男と妊娠7カ月の身重の逃避行となりました。鈴木雪子さんのお宅は、私の隣組です。後世に残る体験であり、ご家族の許しを得て連載いたします。

☆ ☆ ☆
終戦 私たち開拓団員が終戦を知ったのは、昭和20年8月17日の明け方、ウチミの駅に着いた時でした。

駅に着いたのが、夜通し歩いてやっと夜も明けた頃。皆疲れ切っていたどり着いた時は、現地の満州人たちが大勢集まり、「日本負けだよ」と叫んでいました。でも私たちには何の悪さもせず、ただ眺めているだけでした。本部から通達があったのは、16日夕方近くだったと思います。各部落から一人至急集まるように、という連絡だったそうです。帰ってきたのが夜の8時頃でした。

「今夜中にウチミ駅に向かって避難するように」とのことでした。それはまさに青天の霹靂とでもいいでしょう。うか、驚天動地の騒ぎです。

私たちの部落では、8月17日のお祭りの準備で、前日の午後から主人の弟の嫁さん、嫁さんの妹の岡部さんと、親戚どうし3人で、岡部さんの家集まり、持ち寄った煎餅や小豆蜂蜜などを揃え、明日のお祭り気分喜んでいたのが、一変して奈落の底に落ちたのです。(つづく)



20年前の鈴木雪子さん

あなたの声を届けます

動けば変わる 意見・要求を 政治へ

政権与党が過半数割れとなつて、国民の要求が通る可能性が開かれました。市政も同様に、声をあげれば変わります。体育館のトイレが壊れたままなど、意見・要求をお寄せください。

氏名
連絡先
切り抜いて、共産党市議団や
民報配布者にお渡しください

山形県の合計特殊出生率は1・36で、県内の市町村で最も高かったのは東根市の1・63、次いで三川町の1・61、鶴岡市は高い方から9番目で1・42でした。人口が増えも減りもしない出生率の水準「人口置換水準」は2・07です（20男児の偏り5%＋女性の出産年齢までの死亡率2%）。低い出生率が続くと、親となって子どもを産む人口が減り続け、「人口減少モメンタム」が続く社会になります。

『明治二十四年九月山形県東田川郡稲作改良教師ニ聘セラル。同二十九年三月同郡勸業試験場長ヲ命セラ。勸業試験場長ヲ受クル五回。』

『明治二十四年九月山形県東田川郡稲作改良教師ニ聘セラル。同二十九年三月同郡勸業試験場長ヲ命セラ。勸業試験場長ヲ受クル五回。』

『明治二十四年九月山形県東田川郡稲作改良教師ニ聘セラル。同二十九年三月同郡勸業試験場長ヲ命セラ。勸業試験場長ヲ受クル五回。』

『明治二十四年九月山形県東田川郡稲作改良教師ニ聘セラル。同二十九年三月同郡勸業試験場長ヲ命セラ。勸業試験場長ヲ受クル五回。』

東田川史跡物語 島野嘉作の『墓誌』②

青山 崇

まず原文である。

東田川郡在職から大正元年八月二十五日逝去までの略歴である。

同三十六年七月郡人相謀り稲作改良ノ碑ヲ建テ、君ノ功績ヲ千載ニ傳フ。同年九月多年本職ニ従事シ、乾田及ヒ馬耕術ノ指導奨励ニ努メ、功績顕著ナルヲ以テ、慰勞トシテ郡長関原弥里ヨリ金壹仟円、同郡有志総代佐藤清三郎氏ヨリ金百五拾円贈与セラル。

平成30年(2018)～令和4年(2022)の市区町村別の合計特殊出生率				
率	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域
2.0				
1.5	東根市 1.63			三川町 1.61
	寒河江市 1.52			
1.3	天童市 1.48	鮭川村 1.47 新庄市 1.43 最上町 1.42	飯豊町 1.47 南陽市 1.43	鶴岡市 1.42 庄内町 1.40
	朝日町 1.36	金山町 1.39 舟形町 1.38	川西町 1.39 高島町 1.38 長井市 1.37	遊佐町 1.36
	山形市 1.32 河北町 1.32	大蔵村 1.33 真室川町 1.32 戸沢村 1.31	小国町 1.35 米沢市 1.32	酒田市 1.32
	尾花沢市 1.29 中山町 1.29 大石田町 1.28 村山市 1.25 西川町 1.24 上市市 1.22 山辺町 1.22 大江町 1.18		白鷹町 1.29	

厚生労働省：人口動態統計特殊報告（2024.04.19公表）から作成

ラル。
同月君職ヲ辞シ家ニ
帰り専ラ農事ニ励

これまで書いてこなかったのが簡潔な年表風に記す。
明治二十四年九月
山形県東田川郡稲作改良教師となる(1891年)

同二十九年三月 同郡勸業試験場長ヲ命セラル

(明治二十六年「農事試験場」農事が「勸業」から独立し、それまで名称が勸業や農事と統

一されていなかったが、同年施行法律で「農事試験場」となった。ここでは原文通りとしておく)

同三十六年七月 郡の人々と「稲作改良之碑」建立 (1903年)

同九月 長年の功績に郡長関原弥里より壹仟円、同郡有志総代佐藤清郎より百五拾円贈与
同九月 帰宅、家の農事に励む



きびちよ

「冬に灯油が無いという事は、腹が減ったのよりも耐え難い」とは灯油裁判で聞いた言葉だったでしょうか。

▲灯油が無くなった時に買いに行くのが俺の仕事になっていく直近のお年寄りから、「ストープほっここれだ」との電話。直ぐに行つて、台所の物と交換。これにもエラーと付く。ならばと、我が家のあいている物を持って行く。

▲さて、修理は何処に頼もうという事なんだが、川越電機は亡くなったし、近くに電気屋は思い付かない。こげだどぎ、どごさ頼めばいい・と赤川農機に飛び込んだんだ。そこから連絡してもらつて修理出来たのでしたが、いざという時に困るって事だから・・・。売る店はあるや？って。

▲しかし、前とは随分変わったなと寝床に入って考えたんだっけ。上町に近年まで川越さんがあったし、古くは渡部さんがあった。中町に2軒、下町に1軒あ・今あるのは駅前にあつたかーと。

▲ついでに思い起こしたのが散髪屋さん。上町に今は1軒だが一時は5軒もあつたんだ。中町に2・下町に2・新町に3・駅前に5軒もあつたようだ。

▲数では負けずにあつたのが蕎麦屋だ。上町には無かつたが、中町は上鉢のうどんを始めに3軒・新町は庄内ハムの他1軒・下町に2軒あつたか。駅前に2軒・それに今は白藤と。

▲薬屋は、今は1軒だが4軒あつたんだ。料亭も同じ。駅前旅館もあつたし、登記所に保健所、医師会、食糧事務所もあつたんげ。

▲眠られない夜に数えてみては。(石川)